

本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第4問 (28点)

(1) (12点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、各取引の下の勘定科目から最も適切と思われるものを選び、記号で解答すること。仕訳の金額はすべて円単位とする。

- 本日、材料 200 個を掛けにより仕入れた。購入代価は@12,000 円であり、引取費用 320,000 円は当社が負担し、現金で支払った。なお、購入原価は、材料購入のつど購入代価に内部材料副費予定配賦額（購入代価の 5%）と引取費用とを加えて計算している。
 ア. 現金 イ. 材料 ウ. 製品 エ. 買掛金 オ. 内部材料副費
 カ. 製造間接費 キ. 売上原価
- 当月の直接工による労務費の消費高を計上する。作業時間報告書によれば、直接作業時間（加工および段取時間）は 900 時間、間接作業時間は 30 時間、手待時間は 5 時間であった。当工場において適用される直接工の予定賃率は 1,300 円である。
 ア. 現金 イ. 仕掛品 ウ. 製品 エ. 賃金・給料 オ. 製造間接費
 カ. 外注加工賃 キ. 売上原価
- 外注業者に対して、加工賃 20,200 円を、小切手を振り出して支払った。支払いと消費の仕訳を別々に示すこと。なお、当工場では、購入した原料を外注業者に無償支給し、加工の一部を依頼している。加工品が外注業者から納入されると、検査後、ただちに製造現場へ引き渡される。
 ア. 当座預金 イ. 材料 ウ. 仕掛品 エ. 製品 オ. 買掛金
 カ. 製造間接費 キ. 外注加工賃

(2) (16点)

次の資料に示す総勘定元帳の記入にもとづいて、答案用紙の製造原価報告書を作成しなさい。なお、当社は実際原価計算を採用しているが、直接材料費および直接労務費に関しては予定価格および予定賃率を用い、製造間接費に関しては予定配賦をしている。

材		料	
前期繰越	1,260,000	諸口	()
買掛金	24,000,000	次期繰越	1,240,000
原価差異	12,500		
	()		()

賃 金		給 料	
現金預金	()	未払費用	2,980,000
未払費用	3,100,000	諸口	18,597,500
	()	原価差異	22,500
	()		()

製 造		経 費	
諸口	11,430,000	諸口	32,650,000
減価償却費	21,220,000		
	32,650,000		32,650,000

製 造 間 接 費			
材 料	9,800,000	仕 掛 品	()
賃 金 給 料	5,600,000	原 価 差 異	100,000
製 造 経 費	13,000,000		
	()		()

仕 掛 品			
前期繰越	3,650,000	製 品	()
材 料	()	次 期 繰 越	()
賃 金 給 料	()		
製 造 経 費	()		
製 造 間 接 費	()		
	()		()

製 品			
前期繰越	1,720,000	売 上 原 価	75,000,000
仕 掛 品	()	次 期 繰 越	2,000,000
	()		()

第 5 問 (12 点)

当製作所では部品 X を製造しており、当月の実際データは次のとおりである。仕掛品の月初・月末有高はない。

直接材料費	6,464,000 円 (=320 円/個×20,200 個)
直接労務費	2,633,100 円 (=1,310 円/時間×2,010 時間)
製造間接費	5,150,000 円
実際生産量	1,000 個

部品 X の標準原価カードは次のとおりであるとして、答案用紙の各差異を計算しなさい。ただし、製造間接費は直接作業時間を基準とした公式法変動予算によって設定されており、変動費率は 980 円/時間、固定費予算は 3,150,000 円 (月額) である。能率差異は標準配賦率から計算すること。

直接材料費	330 円/個	20 個	6,600 円
直接労務費	1,300 円/時間	2 時間	2,600 円
製造間接費	2,480 円/時間	2 時間	4,960 円
部品 X 1 個当り標準製造原価			<u>14,160 円</u>